

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画	① 教育目標の設定	全教職員が共通理解できる教育目標の設定	教育目標をめざす副題として「学ぶ力・心の力・体の力を高め、新時代を生きる力を育成する」を共通理解した。	B	B 学校評価アンケート（教職員） 「教育目標の共通理解」肯定的評価92% 学校評価アンケート（保護者） 「特色のある教育活動の工夫」肯定的評価88% 学校評価アンケート（教職員） 「教育課程編成の話し合い」肯定的評価100% 学校評価アンケート（教職員） 「教育活動の評価」肯定的評価100%	教職員の共通理解を更に進め、地域・保護者への周知を進めていく。
		② 教育計画の作成	「学ぶ力（学力向上）・心の力（人権教育・生徒指導の充実）・体の力（体力向上）」を育む教育目標の作成	教育ビジョンに基づき、前年度の総括を踏まえた教育計画が作成され、共通理解が図れた。	B		教職員の共通理解を更に進め、計画に沿った教育活動の工夫を行っていく。
		③ 教育課程の編成	基礎・基本の定着を図る取組と豊かな人権感覚を育てる取組を充実させる教育課程の作成	研究主題に基づいた授業改善と学力補完体制の充実を柱に教育課程を編成した。	A		学力保障と人権学習推進の部会を設置し、実践方法を検討する。
		④ 教育活動の評価	児童・保護者・教職員の学校評価アンケートから検証	2学期末に実施し、分析し改善策を検討した。	B		保護者アンケートの回収率をどのように上げていくかを検討する。
	(2) 教科指導 ※道徳科含む	① 学習指導計画の立案	新指導要領をふまえた年間指導計画の作成	教職員で話し合い作成して取り組んだ。	B	B 新学習指導要領を全てふまえるまでには至らなかった。 学校評価アンケート（児童） 「授業はわかりやすい」肯定的評価88% 学校評価アンケート（保護者） 「子どもにわかりやすい授業」肯定的評価94% 学校評価アンケート（教職員） 「指導法の工夫・改善」肯定的評価92%	年度当初より新学習指導要領への対応を進めていく。
		② 学習内容の精選	新指導要領をふまえた学習内容の精選	低中高学年部会で話し合うなどして、組織的に取り組んだ。	B		新学習指導要領に対応した学習内容の精選を組織的に進めていく。
		③ 指導方法の工夫改善	「聞く・話す」力を育てる指導方法の工夫改善	授業方法や指導内容等の実践交流と検証を学年部会でを行い、全体で話し合うことで共通理解を図った。	B		授業方法や指導内容等の実践交流と検証を学年部会でを行い、研究授業を実施して全体で話し合う。
		④ 評価	児童・保護者・教職員の学校評価アンケートから検証	2学期末に実施し、分析し改善策を検討した。	B		保護者アンケートの回収率をどのように上げていくかを検討する。
	(3) 道徳教育	① 全体計画の立案	新指導要領をふまえた全体計画の作成	教職員で話し合い作成して取り組んだ。	B	B 新学習指導要領をふまえた内容により検討を加えたい。 校区の実態に即した人権教育との兼ね合いに留意し指導計画を今後も検討していく必要がある。 新学習指導要領をふまえ、より精選していきたい。 研究授業を実施し、全体で話し合うことができた。	年度当初より新学習指導要領への対応を進めていく。
		② 学習指導計画の立案	新指導要領をふまえた年間指導計画の作成	教職員で話し合い作成して取り組んだ。	B		人権教育に留意した指導計画を年度当初に提示する。
③ 学習内容の精選		新指導要領をふまえた学習内容の精選	教職員で話し合い作成して取り組んだ。	B	実践をしたことを検証し、次年度に引き継ぐ。		
④ 指導方法の工夫改善		児童の実態をふまえた指導方法の工夫改善	低中高学年部会で話し合うなどして、組織的に取り組んだ。	B	低中高学年部会で話し合う時間を設定し、組織的に取り組む。		
(4) 特別活動	① 学級活動・学級経営	支え合い高め合う集団づくりの実践	児童や学級集団の実態把握に努め、全体で話し合うなどして、組織的に取り組んだ。	B	B 毎月の会議後に全教職員が児童の様子を伝える時間を取るなど、定期的に児童や学級集団の実態把握を行うことができた。 学校評価アンケート（児童） 「運動会や遠足などの行事は楽しい」肯定的評価92% 学校評価アンケート（保護者） 「児童会活動や学校行事に積極的に楽しく参加」肯定的評価92% 人数の制約もあり全員が希望通りというわけではないが、どのクラブも意欲的に取り組んでいた。	集団づくりの理念や手法についての研修を行う。	
	② 学校行事	魅力ある学校行事の創造	年間計画に基づき実施し、個々の行事について総括を行い、改善点の整理に努めた。	B		地域への啓発がまだまだ不十分である。	
	③ 児童・生徒会活動の活性化	学校生活をより楽しく豊かなものにする活動の展開	常時活動のほか学校行事等の役割も担い、高学年児童が学校の成員としての役割を自覚できる機会となった。	B		高学年児童の意欲をより引き出す活動展開を考えていく。	
	④ クラブ・部活動の活性化	児童の興味・関心を生かし主体的に参加する活動の展開	児童の希望を基に4つのクラブを編成し、年間8回実施した。	B		4～6学年児童の意欲をより引き出す活動展開を考えていく。	
(5) 総合的な学習の時間の指導	① 学習指導計画の立案	児童や地域の実態をふまえた年間指導計画の作成	教職員で話し合い作成して取り組んだ。	B	B 全体研修で指導計画を提案し、計画の共有化を行うことができた。 11月23日の「つざかフェスタ」で取組を発表し、人権や地域をよくするためのメッセージを伝えることができた。 児童の主体的な学びをフェスタの発表に活かすことができた。 記述アンケートには、活動内容を評価する声が多数寄せられた。	豊富な地域遺産と出会う系統性のある計画までには至っていない。	
	② 学習内容の精選	人権の視点と地域の特性をふまえた学習内容の精選	鼓阪の「ひと」「もの」「こと」に出会う活動を多く取り入れ、地域の良さや課題に目を向ける学習活動に取り組むことができた。	B		地域への啓発がまだまだ不十分である。	
	③ 指導方法の工夫改善	課題解決のための主体的な学びにつながる指導方法の工夫改善	低中高学年部会で話し合うなどして、組織的に取り組んだ。	B		児童の意欲をより引き出す活動展開を考えていく。	
	④ 評価	取組発信後にアンケートを実施し検証	地域や保護者に「つざかフェスタ」後にアンケートを実施	A		アンケートの回収率をどのように上げていくかを検討する。	
(6) 人権教育	① 人権教育推進計画の立案	児童や保護者・地域の実態をふまえた推進計画の作成	教職員で話し合い作成して取り組んだ。	A	A 全体研修で推進計画を検討し、計画の共有化を行うことができた。 学校評価アンケート（保護者） 「人権を大切にし、いじめのない学級づくり」肯定的評価90% 重点教材について、全学年が取組を報告し工夫改善を図った。	教職員の共通理解を更に進め、計画に沿った教育活動を行っていく。	
	② 学習内容の精選	地域の特性をふまえた学習内容の精選	各学年で取り組む重点教材や人権学習参観について低中高学年部会で話し合うなどして、組織的に取り組んだ。	B		指導内容の検証を学年部会でを行い、次年度に引き継ぐ。	
	③ 指導方法の工夫改善	児童に当事者性を意識づける指導方法の工夫改善	学期ごとに取組を全体で交流するなど、組織的に取り組んだ。	A		研究授業を実施し、指導方法の工夫改善を全体で話し合う。	
(7) 生徒指導	① 組織的な生徒指導（校内・校外・小中連携）	① 組織的な生徒指導（校内・校外・小中連携）	教職員全体で取り組む体制を整備	毎月生徒指導推進委員会を開き、生徒指導に係る現状の把握に努め、指導の焦点化を図った。	B	A 学校評価アンケート（教職員） 「生徒指導において組織的に対応できる体制」肯定的評価92% 学校評価アンケート（保護者） 「社会のルールやマナーの指導」肯定的評価96%	問題事象に関わる情報の集中化など生徒指導推進体制を見直し、組織強化を図る。
		② 問題行動の予防と指導	問題行動への教職員の一貫性のある対応	常に状況把握に努め、一貫性のある組織だった対応に努めた。	A		一貫性のある指導につながる指導マニュアルを作成を検討する。
	③ 教育相談・児童生徒理解	③ 教育相談・児童生徒理解	児童理解に努め迅速に話し合う体制の整備	毎月教育相談校内委員会を開き、情報収集に努め、会議等で共通理解を図った。	A	A 学校評価アンケート（保護者） 「子どもの悩みや友達の問題に対応」肯定的評価85% 学校評価アンケート（保護者） 「保護者からの相談や要望に対応」肯定的評価88%	問題事象に関わる情報の集中化により事象への早期対応を図る。
		④ 家庭・地域との連携	家庭・地域との連携体制の整備	担任を中心にできるだけ複数で連携が図れるように努めた。	B		スクールカウンセラー事業の保護者への周知が不十分である。
	⑤ 関係諸機関との連携	⑤ 関係諸機関との連携	関係機関との連携体制の整備	関係機関との連携を密にし、必要に応じて話し合いを持った。	A	A 学校評価アンケート（教職員） 「家庭や関係機関との緊密な連携」肯定的評価100% 「なかまを考える日」を毎学期設定し、縦割り班でいじめをなくす活動を実施した。	関係機関とのより一層の連携強化を図る。
		⑥ いじめの問題について	・いじめへの対処方針や指導計画の明確化	アクションプランに基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期対応につながる指導に取り組んだ。	担当者間で毎日情報共有し、早期発見に努めた。		A
	・日頃よりのいじめの実態把握・早期発見		担当者間で毎日情報共有し、早期発見に努めた。	担当者間で毎日、全体で月1回情報共有した。	A	教職員が日常的に報告し合える関係作りををより一層進める。	
	・各学級の状況の学校組織として共有		担当者間で毎日、全体で月1回情報共有した。	担当者間で毎日、全体で月1回情報共有した。	B	教職員が日常的に報告し合える関係作りををより一層進める。	
	・保護者や地域との連携		担任を中心にできるだけ複数で連携が図れるように努めた。	担任を中心にできるだけ複数で連携が図れるように努めた。	B	保護者への対応には複数で当たれるよう、全教職員の共通理解を徹底する。	
	(8) キャリア教育	① 組織的なキャリア教育	① 組織的なキャリア教育	児童の実態をふまえた推進計画の作成	教職員で話し合い作成して取り組んだ。	A	A 全体研修で推進計画を提案し、計画の共有化を行うことができた。 学校評価アンケート（教職員） 「地域人材や地域教育力を学校教育に活用」肯定的評価92% 学校評価アンケート（児童） 「校外学習や地域の人と一緒に活動は楽しい」肯定的評価87% 学校評価アンケート（保護者） 「地域と連携して教育を高めようとしている」肯定的評価92%
③ 指導方法の工夫改善			「関わる力」「活用する力」「挑戦する力」「見通す力」を身につけさせる指導方法の工夫改善	低中高学年の重点目標について、低中高学年部会で話し合うなどして、組織的に取り組んだ。	B	授業方法や指導内容等の実践交流と検証を学年部会や全体で話し合う際に、キャリア教育の視点を踏まえる。	
④ 勤労観・職業観に関する指導			多様な進路選択につながる「未来をひらく」「社会をつくる」「なかまをつなげる」能力を育成する指導	地域に出かけたり地域の人といっしょに活動したりする授業を多く取り入れた。	B	指導内容の検証を学年部会でを行い、地域人材の確保も含め次年度に引き継ぐ。	
⑤ 家庭・地域社会との連携			家庭・地域との連携体制の整備	地域の支援が継続して得られるよう丁寧な対応を心がけた。	B	安全見守りへの配慮も含め、地域への啓発がまだまだ不十分である。	
② 特別支援教育の推進体制			特別支援教育の推進体制	毎月特別支援教育推進委員会を開き、児童の実態把握に努め、支援の共通理解を図った。	B	教職員の共通理解を更に進め、体制の整備をより一層進めていく必要がある。	
(9) 特別支援教育	① 特別支援教育	② 特別支援学級での指導方法の工夫改善	個別の教育支援計画の作成と指導方法の工夫改善	教育支援計画をもとに個々の指導について共通理解を図るとともに、学期ごとに支援計画を更新し、指導の工夫改善に努めた。	B	B 特別支援学級児童6名の教育支援計画を作成し、校内委員会にて検討を加え、全体研修で計画を共有し支援に当たることができた。 特別な支援が必要な児童22名の指導計画を作成し、校内委員会にて検討を加え、全体研修で計画を共有し支援に当たることができた。 特別支援校内委員会で情報を共有し、多くの教職員が保護者対応できるよう努めた。 インクルーシブ教育指導員の派遣を要請し、指導を受けた。	個別の教育支援計画に沿った支援が、支援員やスクールサポーターなどにも共有できるようにしていきたい。
		③ 通常の学級での指導方法の工夫改善	個別の指導計画の作成と指導方法の工夫改善	指導計画をもとに個々の指導について共通理解を図るとともに、学期ごとに支援計画を更新し、指導の工夫改善に努めた。	B		個別の指導計画に沿った支援が、支援員やスクールサポーターなどにも共有できるようにしていきたい。
		④ 家庭との連携	家庭との連携体制の整備	担任を中心にできるだけ複数で連携が図れるように努めた。	B		保護者の特別支援教育に対する理解と啓発を進める必要がある。
		⑤ 関係機関との連携	関係機関との連携体制の整備	こまめな連携を心掛けることで指導の一助となるよう努めた。	B		インクルーシブ教育指導員の指導をどのように支援に活かすか。
		① 体力向上推進計画の立案	児童の実態をふまえた推進計画の作成	教職員で話し合い作成して取り組んだ。	B		全体研修で推進計画を提案し、計画の共有化を行うことができた。
(10) 体力向上推進	① 体力向上推進	② 体育的行事	魅力ある学校行事の創造	個々の行事について総括を行い、改善点の整理に努めた。	A	B 「つざかかけ足」「なわとび大会」といった児童の課題克服を意識した集会的行事を実施し、事後に総括を行った。 若草中学校の教員と協働で実施することができた。 計画的な取組と併せ、児童に応じて集会を企画し指導を行った。	児童の意欲をより引き出す活動展開を考えていく。
		③ 体力テストの活用	体力テストの実施と分析	会議にて方法を検討して実施し、結果分析を行った。	B		「投げる」力の向上に向けた教具を準備し、指導を行っていく。
		④ 基本的生活習慣	児童の実態をふまえた指導	身体測定などを通じて、課題に応じた指導を積極的に行った。	B		保護者への啓発がまだまだ不十分である。

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善策
Ⅱ 学 校 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 校長のリーダーシップ	サーバントリーダーシップの発揮	教職員の能力を肯定し、その力が発揮されることで組織全体が成長できる環境づくりに努めた。	B	学校評価アンケート（教職員） 「学校運営に教職員の意見が反映」肯定的評価92% 8項目のコンセプトをもとに重点目標を定め方向性を示した。 学校評価アンケート（教職員） 「学校運営に教職員の意見が反映」肯定的評価92% 校務分掌間で連携し行事の計画や総括が行っていた。 会議が情報交換と問題解決の場として機能していた。 教職員が声を掛け合い、修正資料の確認や総括の提出ができた。 教職員が互いに理解し合い、協力・協働できる環境ができていた。 保護者からの肯定的意見は増えたが、回収率は前年度を下回った。 ノー残業デー以外の曜日でも退勤時刻が早くなった。	教職員の能力を評価し意欲を引き出す学校運営に心がける。
		② 学校経営目標・方針	「力のある学校」をコンセプトにした学校運営	年度当初にコンセプトを示し、共通理解を図った。	B		教職員の共通理解を更に進め、教育活動に反映できるようにする。
		③ 教職員の適正配置と運営への参加意識	適材・適所の人的配置	本人の希望を考慮しながら資質や能力を考えて配置を行い、参加意識を高めた。	B		教職員の規模に見合った校務分掌の工夫改善に取り組む。
		④ 校務分掌等の連携	分掌間のつながりを意識した学校運営	活動ごとの担当が話し合いを持ち、計画・実施した。	B		個人にかかる仕事量の平均化に取り組む。
		⑤ 会議の運営と位置づけ	意思決定と情報共有を両立させた運営	事前に討議資料を公開することで会議が円滑に進行し、情報共有の時間が確保できた。	B		開始・終了時刻の厳守といった規律面に課題が残った。
		⑥ 会議の結果	意思決定の確認と活動ごとの総括	会議後に討議資料を修正して公開することで、意思統一ができた。	B		修正資料の確認や総括の提出をより徹底する。
		⑦ 職場の人間関係	同僚性の構築と参画意識の発揮	コミュニケーションを図り、職場の同僚性構築に努めた。	B		教職員が日常的に報告し合える関係作りをより一層進める。
		⑧ 学校評価の実施	児童・保護者・教職員の学校評価アンケートを12月に実施	1月にアンケートの分析と考察を行い、教育活動に活かした。	B		保護者からの肯定的意見は増えたが、回収率は前年度を下回った。
	⑨ 働き方改革の実施	毎週金曜日にノー残業デーを実施	教職員と相談して退勤時刻を設定し、効果的に実施できた。	A	出勤・退勤時刻をどのように設定していくか。		
	(2) 研究・研修	① 教員の資質能力向上を目指した組織的・計画的な校内研修の実施	児童の課題に迫る新たな教育内容を創造する研修を組織的に計画・実施	計画的に実施できたが、特に夏期は校外研修と重なるなど全員参加できない研修があった。	B	学校評価アンケート（教職員） 「計画的に研修を実施し実践に活かしている」肯定的評価83% 2月に2年が道德の研究授業を実施し、事後研修を行って授業改善について意見を出し合った。 参加した研修には主体的に参加できなかったが、教員数が少ないため体制が組めず、やむなく見送った研修もあった。 夏季休業中の研修について報告会・伝達会を行った。 学校評価アンケート（保護者） 「先生は危なくないよう気をつけてくれている」肯定的評価96% 学校評価アンケート（保護者） 「緊急時の対応について知らせている」肯定的評価98% 日常的な意見交換のほか、防災訓練や消防訓練などに参加した。	研修に充てることのできる日数が減っていくなかで、どのようにして質の高い研修を確保していくことができるか。
		② 授業改善を目指した授業研究の実施	教職員が学び合える公開授業・研究授業の実施	研究授業を実施し、授業改善についての意見交換を深めた。	B		外部講師を招へいする。
		③ 校外の研修への積極的な参加	教職員の授業力の向上と人権意識の涵養につながる研修への積極的な参加	市教委・県教委、および、市人教・奈人教による研修などに主体的に参加できた。	B		研修に参加できる補充体制を確立する。
		④ 校外研修内容の報告や伝達	校外研修について報告会・伝達会を実施	主だった研修について必要に応じて研修報告を行った。	B		研修後の報告会の時間確保、あるいは報告方法を検討する。
	(3) 安全管理	① 学校安全計画の立案	児童や地域の実態をふまえた計画の作成	教職員で話し合い作成し、予定通り取り組めた。	B	水泳時の緊急対応や嘔吐処理など、随時会議や研修で話し合った。 児童引き渡し訓練や1・17集会などの連携・教育活動を行った。 学校評価アンケートをもとに体制を見直し整備した。 学校評価アンケート（保護者） 「先生は危なくないよう気をつけてくれている」肯定的評価96% 学校評価アンケート（保護者） 「緊急時の対応について知らせている」肯定的評価98% 日常的な意見交換のほか、防災訓練や消防訓練などに参加した。	教職員の共通理解を更に進め、計画に沿った教育活動を行っていく。
		② 学校防災計画の立案	児童や地域の実態をふまえた計画の作成	教職員で見直しを行い、計画の確認を行った。	B		教職員の共通理解を更に進め、計画通りの対応ができるよう備えを怠らないようにする。
		③ 危機管理体制の整備	児童や地域の実態をふまえた体制の整備	不審者対応として校内にある門の施錠化を行った。	B		「悲観的に予測する」という危機管理の鉄則に立ちかえり、教職員の危機管理意識を高める。（安易な楽観視を排除）
		④ 安全指導の工夫改善	児童や地域の実態をふまえた指導の工夫改善	地震対応の避難訓練と併せて1・17集会を実施し、児童の意識の涵養に取り組んだ。	A		従来の取組を工夫改善するとともに、あらゆる機会を通じて、児童の危機管理意識を高める。
		⑤ 家庭との連携	家庭との連携体制の整備	児童引き渡し訓練を実施し、緊急時の対応について確認した。	B		従来の取組を工夫改善するとともに、あらゆる機会を通じて、保護者の危機管理意識を高める。
		⑥ 関係機関との連携	関係機関との連携体制の整備	地区の自主防災防犯会と施設の安全性について意見交換した。	B		従来の取組が、より地域と学校が協働で行う取組となるよう検討する。
	(4) 保健管理	① 学校保健計画の立案	児童や地域の実態をふまえた計画の作成	教職員で話し合い作成し、予定通り取り組めた。	B	全校集会や身体測定等の様々な機会をとらえ指導に当たった。 学校評価アンケート（児童） 「命の大切さについて勉強している」肯定的評価95% 学校評価アンケート（教職員） 「児童自ら健康管理ができる力の育成」肯定的評価92% PTA役員を中心に参加いただき、PTA通信にて取組の活動報告を行っていただいた。 毎日給食準備前に顔を合わせ、意見交換を行った。	教職員の共通理解を更に進め、計画に沿った教育活動を行っていく。
② 心のケアや健康相談の体制の整備		ケアを要する児童の発見・支援に全教職員で取り組める体制の整備	学校スクールカウンセラー訪問日に合わせ、教育相談校内委員会や研修を持つなどして、全教職員で児童の対応に当たった。	A	スクールカウンセラーからの助言をどのように支援に活かすか。		
③ 健康観察、健康管理能力の育成		日常の健康観察の組織的取組 子どもの自己健康管理能力向上のための取組	健康観察の結果を共有し、組織的に対応に当たった。	B	従来の取組を工夫改善するとともに、あらゆる機会を通じて、児童の健康管理能力を高める。		
④ 関係機関との連携		関係機関との連携体制の整備	学校保健委員会を3回開催し、児童が置かれている現状の把握と課題の対応について話し合った。	B	保護者への啓発はまだ不十分である。		
⑤ 学校給食の衛生管理		日常的な衛生管理の組織的取組	調理員と管理職や給食担当が連携し教職員全体で取り組んだ。	B	アレルギー対応児童をいつでも受け入れられる体制づくりが必要である。		
(5) 小中一貫教育	① 組織的な運営体制	実務者会議への積極的関与	組織の見直しについて提言し、次年度の方向性を確認した。	B	校区の校長会で話し合い、3学期に実務者会を開催した。 学校評価アンケート（教職員） 「小中一貫教育に努めている」肯定的評価92% 研究部会の方向性について話し合い、次年度につなげた。 学校評価アンケート（保護者） 「小中一貫教育に積極的に取り組んでいる」肯定的評価86%	実務者会の位置づけなど、運営組織の確立が必要である。	
	② 小中教職員の協働体制	部会への積極的な参加	生徒指導部会の担当校として、取組の推進に寄与した。	B		3部会のいずれかに全教職員が所属するなど、組織の活性化に取り組む必要がある。	
	③ 9年間の学びの系統性・連続性を踏まえた教育課程の実施	合同研修会等の積極的な参加	市人教学区別研修会で本校の取組を発信し系統性の確立に努めた。	B		人権学習の取組を成果を他教科・領域にどのように広げていくか。	
	④ 家庭・地域社会との連携・情報発信	H Pの有効活用	ウォームアップレッスン等の取組をH P等で配信した。	B		小中一貫教育に係るH Pが更新できていない。	
(6) 地域との連携	① 学校情報の発信	学校通信・H P等で情報の発信	学校通信・H P等で児童の様子について知らせた。	B	学校評価アンケート（保護者） 「保護者や地域に学校の様子を発信している」肯定的評価98% 記述アンケートには、活動内容を評価する声が多数寄せられた。 PTA役員を中心に参加いただき、PTA通信にて取組の活動報告を行っていただいた。 学校評価アンケート（教職員） 「小中一貫教育に努めている」肯定的評価92% 3学期部会にて、学校評価の結果について意見をいただいた。 学校評価アンケート（保護者） 「地域と連携して教育を進めようとしている」肯定的評価92%	閲覧数は伸びているが、まだまだ不十分である。	
	② 学校(授業)公開	学校の取組を地域に公開	つざかフェスタで多くの方に参観してもらった。	B		他の地域行事との絡みもあるが、地域からの参加が少なかった。	
	③ P T Aの活性化	P T Aとの協働活動の実施	学校保健委員会や人権学習会、子育て学習会等の共同開催や、ふれあいそうじや引き渡し訓練などに協力して取り組んだ。	B		P T A役員以外の参加が少なく、保護者への啓発はまだ不十分である。	
	④ 幼保・高等学校との連携	こ小連携の充実	低学年や6年生が若草こども園と相互に行き来し、児童と園児の交流を充実させることができた。	A		事前の打ち合わせ等も含め、より充実した連携を図りたい。	
	⑤ 学校関係者評価の実施	学校運営協議会小学校部会の実施	毎学期部会を開いたほか、学校通信を配布し情報交換を行った。	B		学校の状況をより多く伝え、評価に対する意見をいただきたい。	
	⑥ 地域教育協議会との連携	学校運営委員会の実施	地域で決める学校予算事業について協議し取組を進めた。	B		学校の状況をより多く伝え、地域予算の有効活用を考えていただきたい。	
(7) 施設・設備	① 教育環境の整備	教育ビジョンを実現するための環境整備	教職員で話し合い計画の共有化を図った。	B	学校評価アンケート（教職員） 「校内全般に清掃が行き届いている」肯定的評価75% 教職員が相互に話し合うことで、無駄の少ない利用につながった。 学校評価アンケート（教職員） 「日常的に点検や管理を行っている」肯定的評価100% ペーパーレス化が進み、今後について検討する必要がある。 過去のデータが活用できているが、より効率化を図りたい。 学校評価アンケート（保護者） 「学校は個人情報の保護について配慮している」肯定的評価98%	少ない教職員数・児童数でどのように校内の環境美化を進めていくか。	
	② 施設設備の有効利用	むだのない施設設備の活用	毎日の活用予定を表で明示し、有効利用を図った。	B		空き教室をどのように活用して行くか。	
	③ 施設設備の管理	危険箇所・補修歌唱の定期点検の実施	毎月一日を安全点検日として危険箇所の点検をした。	A		「悲観的に予測する」という危機管理の鉄則に立ちかえり、教職員の危機管理意識を高める。（安易な楽観視を排除）	
(8) 情報管理	① 公文書の收受・保管	正確な文書ファイリング	市のファイリングシステムにそって文書整理をした。	B	ファイリングのマニュアルの作成を検討する。 過去データの格納場所の共有化を図る。 個人情報管理場所の施設の徹底や情報機器の管理の徹底など、教職員の管理意識を高める。 必要情報の収集を教職員に呼びかける機会を多くする。		
	② 公文書の作成	迅速・正確な文書作成	遅滞なく文書を作成した。	B			
	③ 個人情報の管理・保護	守秘義務の徹底、個人情報の確実な管理	絶えず注意喚起を行い、個人情報の管理に努めた。	A			
	④ 情報の収集	情報収集の共有化	教職員に呼びかけ、より多くの情報収集に努めた。	B			